

クルリンと ほしぞらさんぽ 8月号



夏休み中にぜひほしぞらさんぽ

なかなか晴れている夜空に会えません。8月は晴れてほしいね。8月にほしぞらさんぽができるのは1日と2日で、その後しばらくは月が明るくじゃまします。次にできるようになるのは18日から月末までです。なにより安全第一。暗いからってうれしくて走り回ったりしないでね。

星座早見盤 使い方(復習)

星座早見盤を使ってみましたか。使い方をおさらいしておきましょう。

① 観察場所での北の方角を確かめましたか？北や南が分からないと星座早見盤は使えませんよ。方位磁石を持っていると北はすぐ分かりますが、スマホの中にある磁針も使えます。どちらも地面に置いて北を調べましょう。

② 南の空を探すときは、早見盤の「南」の字を親指でおさえて、頭上にかざして見ます。北の空を探すときには図のように逆さまに持って、頭上にかざします。早見盤は必ず頭上にかざして見るのですよね。

③ 赤い光のライトを使いましたか。小さめで暗めのライトに折り紙など赤いものを貼り付けて、赤い光にするのでしたね。なぜでしょう？ それは、白色光を使うと目がくらんでしまい見上げた星が見えなくなってしまうからです。



早見盤を使うとき注意 図にない土星と木星

この夏、皆さんがほしぞらさんぽをする時間帯に、南東に早見盤にない明るい星が見えています。土星です。もっと低い東の方角には木星も見えています。早見盤にのっていない明るい星があると、星座を見つけるのに迷ってしまいますね。次ページの星の図をよく見て、土星と木星がどの星座にいるか、その位置を確かめておきましょう。

夏の大三角は天頂近く

「天頂てんちょう」という言葉を覚えておきましょう。まっすぐに立っている時に頭の上の空が「天頂」で、星空の真ん中ですね。

8月上旬には夏の大三角はほしぞらさんぽ天頂に見えて

います。見上げるのが大変！こと座のベガもわし座のアルタイルもはくちょう座のデネブも。いつそのこと地面に横になって見上げましょうか。

天文薄明の終わりは

太陽が西の地平に沈んだらいきなり真っ暗になるのではなく、すっかり暗くなるまで時間がかかります。その間を天文薄明はくめいと言います。覚えていますか？

例えば8月10日の日没は18時37分、天文薄明の終わりは20時11分で、本当に空が暗くなるまでに約1時間半かかるのです。夏休み中のほしぞらさんぽはだいたい20時ぐらいからと考えましょう。

ペルセウス座の流星群

だれもが流れ星を見た〜いと言います。夏休み中の8月12日の夜中から明け方にかけて、有名な流星群、ペルセウス座の流星群が流れます。いや流れるはずですよ。と言うのは、今年はちょうど満月の夜に当たり空が明るいので、見えるのはとびつきり明るい流れ星だけ、暗い流れ星は見えなくなつて、数がぐんと少なくなることでしょう。でも火球かきゅうのような明るい流星が見られる流星群です。がんばって待っていれば、いくつかは見ることができるとかも。

夏の星座の代表 さそり座

さそり座のサソリの尻尾から、こぶし一つ分ぐらい東にはなれた所から夏の大三角の間にかけて、そこには天の川があるはずだけど、天の川を見なければ暗い夜空を探さないと。箱根の峠道、例えば「天閣台」の東側の展望台なら見えるでしょう。さそり座の明るい星はアンタレス、サソリの心臓と言われてますね。全天に21ある1等星の1つですね。よく見るとまわりの星と色が違うみたい？ 真っ赤だという人もいます。小さい双眼鏡があると色がよりはっきり見えるでしょう。アン

タレスは地球からの距離はおよそ590光年と遠く（こと座のベガは25光年）、太陽の半径の800倍ぐらいもある超巨星だそうです。

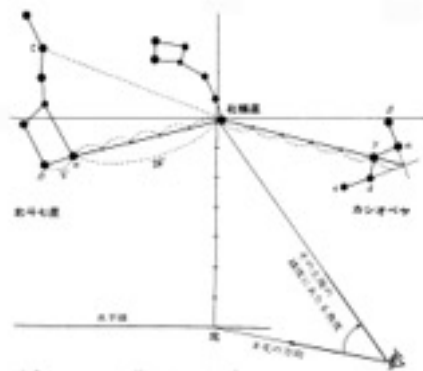
ているから北斗七星。下の国立天文台の星図で二つを確かめましょう。

天の川 いて座

サソリの尻尾より東側に、北斗七星のようなひしゃく型に並んだ星の並びが見えていて、南斗六星と呼ばれています。このあたりがいて座です。漢字の「斗」には「かさを計る容れ物」「ひしゃく」の意味があります。南の空にあるから「南のひしゃく」で南斗、6つの星が繋がっているから南斗六星。北の空にあるのは北斗、7つの星が繋がっ

北西には北斗七星

今度は星座早見盤を使わずに、北を向いて、西の空を見ましょう。そこには北斗七星が図のようにひしゃくの柄を上にして見えていますね。



北斗七星を利用すると、方位磁石がなくても北極星を見つけられますね。ぜひ試してみましよう。また、1時間後に北斗七星がどう動いているか、調べましよう。

